

## 学長定例記者会見要項

日 時：平成29年2月7日(火) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

### 発表事項

1. スタートアップセミナー学修マニュアル『なせば成る！ 三訂版』を発行
2. 山形大学復興支援団体START Tohokuが、“ぼうさい甲子園”でフロンティア賞を受賞しました
3. 村山の「あんばい・いい家」大賞設計コンペにおいて、地域教育文化学部学生が参加したグループが特別賞を受賞
4. 学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」で本学チームが第1位！
5. 純米大吟醸酒「山形大学 燦樹(きらめき)2017」発売
6. 「山形大学安達峰一郎研究プロジェクト」成果報告書を刊行します

### お知らせ

1. 山形大学認定「産学金連携コーディネーター」認定証授与式について  
～ 県内のコーディネーターが全国最大規模に ～
2. 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC/COC+)」シンポジウム  
先輩から後輩へ。～山形で学び、働き、地方創生～
3. 平成29年山形大学人文学部プロジェクト研究企画 パネル・ディスカッション  
「東北地方における観光の新機軸」
4. 山形大学大学院学生表彰者(校友会長賞)表彰状授与式のご案内
5. 文部科学省“次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト”次世代火山研究者育成プログラムが2月11日に開校

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成29年2月21日(火)11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

## 学長定例記者会見(2月7日)発表者

### 1. スタートアップセミナー学修マニュアル『なせば成る！ 三訂版』を発行

学術研究院 教授(基盤教育担当)

やまもと はるふみ  
山本 陽史

### 1. 山形大学復興支援団体START Tohokuが、“ぼうさい甲子園”でフロンティア賞を受賞しました

人文学部4年

みやぎ ゆき  
宮城 由季

//

ほんま あみ  
本間 愛実

// 2年

さいとう あき  
斉藤 亜希

### 2. 村山の「あんぱい・いい家」大賞設計コンペにおいて、地域教育文化学部学生が参加したグループが特別賞を受賞

地域教育文化学部生活環境科学コース 4年

たんの れいな  
丹野 玲奈

//

くまさか かずのり  
3年 熊坂 和則

### 3. 学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」で本学チームが第1位！

地域教育文化学部システム情報学コース 1年

たむら じゅん  
田村 惇

工学部機械システム工学科 1年

わたなべ そうと  
渡辺 創斗

地域教育文化学部(特別聴講学生) 1年

きよ か  
許 可

### 4. 純米大吟醸酒「山形大学 燦樹(きらめき)2017」発売

鯉川酒造株式会社 社長

さとう かずよし  
佐藤 一良

山形大学生協同組合 常務理事

ふじまき まさゆき  
藤巻 正之

農学部附属やまがたフィールド科学センター技術専門職員 佐久間 拓也

### 5. 「山形大学安達峰一郎研究プロジェクト」成果報告書を刊行します

学長

こやま きよひと  
小山 清人

平成29年2月7日  
山形大学

## スタートアップセミナー学修マニュアル『なせば成る！ 三訂版』を発行

本学基盤共通教育の必修科目「スタートアップセミナー」のテキスト『なせば成る！ 三訂版』を発行しました。

本テキストは、大学生が専門にかかわらず、大学での学修に必須となる能力を身につけてもらうため、山形大学がオリジナルテキストとして発行したものです。コミュニケーションのための文章の書き方、プレゼンテーションのポイント、グループワークの技術、レポート作成法、情報収集の方法などの内容を簡明かつ具体的に解説しています。

2010年の初版発行以来、本学の授業で使用するのみならず、広く社会で活用されてきました。大学・高校等の教育機関や、企業・官庁等の研修用テキストとして、あるいは一般の方々の自己研鑽用として活用されています。

ここ数年来、教育界ではアクティブ・ラーニングやNIE（新聞を取り入れた教育）等の必要性が叫ばれ、また国際化・情報化が進展する社会における「社会人基礎力」のあり方に関心が高まっています。

このような動向をふまえ、本書の改訂作業を行い、このほど三訂版を作成、発行いたしました。引き続き社会で広く活用いただけることを願っております。

### ◆改訂のポイント

- ・必要な情報を的確に収集し、伝える文章を書くための「新聞活用術」の項目を追加
- ・アクティブ・ラーニングで導入が進む「ポスターセッション」の項目を追加

### ◆書名：『スタートアップセミナー学修マニュアル なせば成る！ 三訂版』

### ◆編集：なせば成る！ 編集委員会

### ◆ISBN：978-4-903966-29-8

### ◆発行元：山形大学出版会

### ◆版型・頁数：B5版96頁

### ◆定価：本体800円＋税

### ◆内容：裏面の目次をご参照ください。

### ◆購入方法：

最寄りの書店へご注文いただくか、  
山形大学出版会販売部へお問い合わせください。  
電話：023-677-1182  
E-mail：publishing@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



(お問合せ先)  
山形大学出版会  
電話：023-628-4840

# 目次

## 発刊にあたって

### はじめに 大学で学ぶということ

1. 大学における学び…………… 8
2. 人間力を磨き・鍛える…………… 10
3. 社会人基礎力を高める…………… 12

### 1章 学びの技法

1. 読解力・傾聴力を身につける…………… 16
2. 文献を読み込む力…………… 18
3. 作文力を高めよう！…………… 20
4. 文の書き方の原則…………… 22
5. 新聞活用術 —就活適齢期からでは間に合わない— …… 24
6. 要約と音読の効用…………… 26
7. 学修のためのノート術…………… 28

### 2章 プレゼンテーションを学ぶ

1. プレゼンテーションの基礎…………… 32
2. 話の組み立て方…………… 34
3. 論理性が大切…………… 36
4. 話し方のテクニック…………… 38
5. 非言語表現の工夫…………… 40
6. 効果的なスライドを作るには…………… 42
7. 聞き手本位の資料と演出…………… 44
8. 質疑応答で説得力アップ…………… 46
9. ポスターセッション…………… 48

### 3章 グループで学ぶ

1. ワークショップを楽しむ…………… 52
2. ロールプレイの魅力…………… 54
3. ディベートへの挑戦…………… 56
4. ディベートの流れ…………… 58
5. ディベート・スピーチの技法…………… 60

### 4章 レポートを書く

1. レポートとは？…………… 64
2. 主題を考える…………… 66
3. 構成を考える…………… 68
4. 本文の執筆…………… 70
5. 段落からレポートを考える…………… 72
6. 引用と参考文献…………… 74
7. 理工系学生のレポート作法…………… 76

### 5章 調査・情報収集の方法

1. 調査・情報収集の方法…………… 80
2. ネットで調べる…………… 82
3. インタビューの技法…………… 84
4. 情報収集と情報倫理…………… 86
5. 情報収集の実践・辞書と図書…………… 88
6. ネット検索と実地踏査…………… 90
7. 情報管理…………… 92



平成29年2月7日  
山形大学

## 山形大学復興支援団体START Tohokuが “ぼうさい甲子園”でフロンティア賞を受賞しました

山形大学復興支援団体START Tohokuは、2011年に発生した東日本大震災直後に創設された団体です。このたび、【平成28年度1.17防災未来賞“ぼうさい甲子園”】において「フロンティア賞」を受賞しました。

本団体は、石巻を中心に被災地支援を行い、現在はそこから学んだことを還元するため県内での活動も行っています。今回の受賞は、これらの活動を評価いただき、全国136件の応募の中から選ばれたものです。今後も山形県での防災活動に尽力していきます。

### 1. 山形大学復興支援団体START Tohoku



2011年に発生した東日本大震災直後に学生有志により、専門・大学の枠を超え“復興”というテーマのもとに集結し、ともに考え実行するときではないか、と団体を立ち上げました。

私たちは、多くの人々が石巻との繋がりや関心を強めることで、人とお金、そして“縁”がまわるようになることを目指しています。そして震災を機に見直されることになった「防災」や地域コミュニティの在り方といった課題について考えます。

### 2. 石巻スタディーツアー

被災地の抱える課題は刻々と変わり、求められている支援も変容しています。その中で、被災地の現状を直に知ること、参加者の学生などが問題を直視し、解決に取り組む努力をすることで、将来の復興、そして社会全体の課題解決を担う人材育成を目標としています。

本ツアーは、山形大学生のみならず、市内の中学生、教員、市民を対象としています。これまで18回のべ600人の方々と石巻で復興・防災・減災について学んできました。昨年に引き続き、今年3月には山形大学公務員講座受講者を対象としたツアーを開催します。行政の方や石巻市民の方と交流し、行政の役割について学ぶ内容となっています。



↑ 観光協会の方と街歩き

### 3. ぼうさい甲子園 とは

「ぼうさい甲子園」とは、兵庫県神戸市で毎年1月に、阪神・淡路大震災の教訓を後世に活かすとともに防災の仲間をつなぐことを目的にNPO法人さくらネットと毎日新聞が主催しています。「ぼうさい甲子園」との出会いは4年前。STARTのメンバーである斉藤（人文学部2年）が高校生時代に地元で行っていた防災活動を評価して頂き、表彰式に参加しました。その際に「山形県から応募は過去に無い」ということを知りました。今回の応募には、その時に感じた山形から防災について発信をしたいというきっかけもありました。

#### 4. 今後の活動

まもなく震災から6年が経とうとしています。そんな日々のなかでも次々と災害が発生し、犠牲者を出しています。今私たちに何ができるか、何をすべきか今一度考え直し、山形から防災を発信していけるよう取り組みます。また、メンバーの中には昨年防災士の資格もとった人もおり、今後はより専門的に、活発に活動していきたいと思っています。

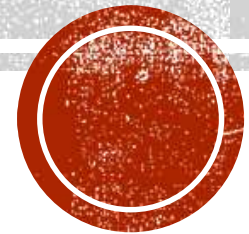
(お問合せ先)

START Tohoku

thinknewtohoku@gmail.com

# START Tohoku と受賞報告

山形大学復興支援団体START Tohoku



# STARTとは・・・

東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市。復旧から復興へと移行しつつあり、復興には長い年月がかかると言われていました。2011年11月、その復興に必要な支援を行うためにSTARTは学生有志で集まり、石巻中心市街地へ行きお父さんたちと話をしていくことから始まりました。現在、山形大学の学生が中心となり、他大学の学生や社会人などと連携しながらプロジェクトを進めています。





# 私たちの使命

- 私たちSTARTは、多くの人々が石巻との繋がりや関心を強めることで、人とお金そして”縁”がまわるようになることを目指していきます。
- 震災を機に改めて見直されることとなった、防災や地域コミュニティ、持続可能な社会のあり方といった課題についても取り組んで行きます。
- 今後とも石巻、そして私たちの未来を創り上げる活動を続けて行きます！



### 3. 11以降の『学び』とは？

●震災の”現場”は、教科書ではわからない。

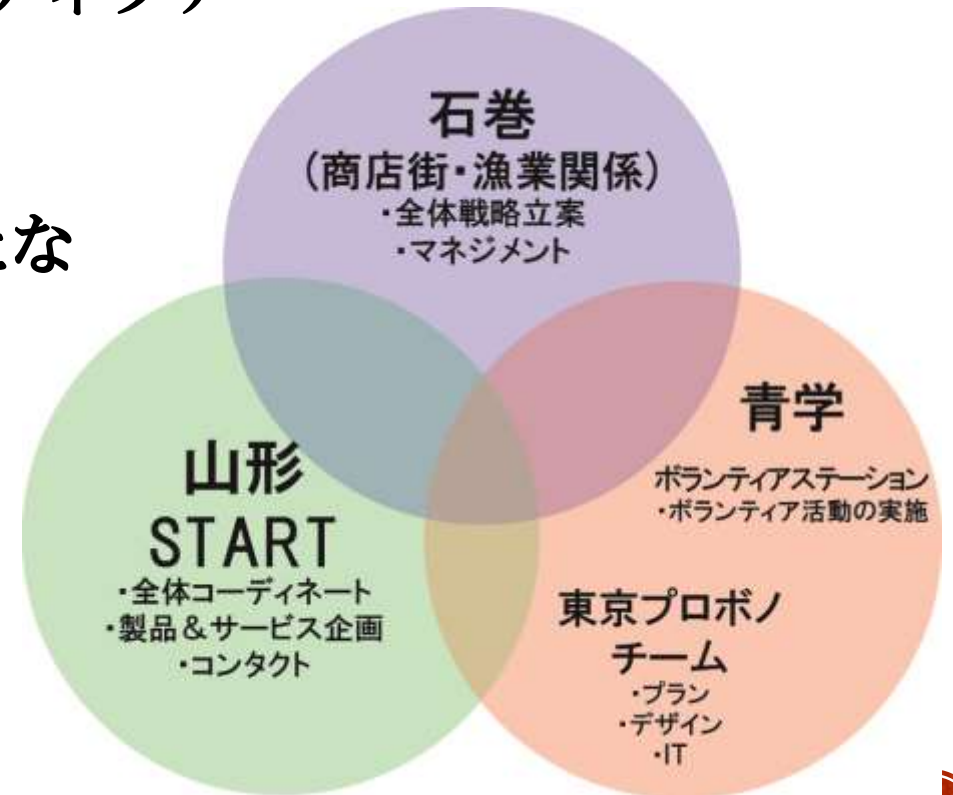
自分の目と耳・手足で学び取っていく。新しい山形、東北の未来はそこから見えてくる。

⇒ 1泊2日石巻セミナーツアー、石巻日帰りスタディツアー

●ソーシャル時代の「枠を越えた繋がり」が新たな知と創造を生む。

⇒ AY石巻プロジェクト

= 青山学院大学、東北芸術工科大学、  
山形大学、東京プロボノチーム、  
そして石巻市商店街との連携プロジェクト



- ● 『何に興味があるか』だけではなく『自分に何が出来るか』を考える「マインド・シフト」
- ⇨裂き織りグッズプロジェクト
- 参加学生の学んでいる、美術・プロダクトデザイン・経済学・
- マーケティング・街おこし・コミュニティデザインの専門知識を生かした活動。



# 主な活動経歴～石巻から考える復興～

- 石巻復興プロジェクト
- 石巻セミナーツアー
- 石巻スタディーツアー
- 復興ステーション計画
- 裂き織による反物リメイク
- デコヘル等 防災活動



# 主な活動経歴～石巻から考える復興～

- 石巻復興プロジェクト
- 石巻セミナーツアー
- **石巻スタディーツアー**
- 復興ステーション計画
- 裂き織による反物リメイク
- デコヘル等 防災活動



12/5<sup>土</sup>

# 石巻スタディツアー

震災から5年目の石巻を訪れ、様々な場所を巡り、  
石巻で生活している方々との交流を通じて、  
震災の教訓や復興状況、石巻の魅力を  
学び、考える時間を一緒に過ごしませんか？



ツアー申込み  
QRコード



## スタディツアー

日時：2015年12月5日（土）  
場所：山形大学 小白川キャンパス正門  
集合時間：7:30（雨天決行！）



## スタディツアー説明会

ツアー参加[希望]者を対象に、ツアーについて紹介します  
日時：2015年12月3日（木）18:00～19:00  
場所：山形大学 小白川キャンパス  
基盤教育3号館311教室

# 石巻スタディーツアー



（主催）  
学生団体 STARTTohoku  
代表 石井孝志（人文学部4年） 連絡先 thinknewtohoku@gmail.com  
申込URL：<http://studytourbystart.doorkeeper.jp/events/34121>



## ■概要

震災の記憶と復興を体感する為のツアー。  
震災当時の出来事や復興のプロセス、石巻や  
商店の紹介などをしながら石巻市内を巡って  
いく。

## ■対象

学生（修学旅行、社会科見学、ゼミなど）、  
一般社会人（会社、行政などの研修、復興支  
援したい人）、ボランティアなど













これまで約20回、 600名以上の方に参加していただきました





# 「フロンティア賞」を受賞しました！

## ■ フロンティア賞とは・・・

→過去に応募がなかった地域・分野での先導的な取り組みを行う学校に対し授与される。

**山形県内で初めて受賞！！！！**



STARTしよう  
東北を、一緒に。



平成29年2月7日  
山形大学

## 村山の「あんばい・いい家」大賞設計コンペにおいて、 地域教育文化学部学生が参加したグループが特別賞を受賞

村山市が開催した第2回村山の「あんばい・いい家」大賞コンペにおいて、地域教育文化学部学生の4年生丹野玲奈さんと3年生熊坂和則さんが参加したグループが特別賞を受賞しました。

第2回村山の「あんばい・いい家」大賞設計コンペは、市民の定住及び転入者の増加を図るため村山市が開催したもので、経済性と環境への配慮のバランスがとれた「雪を考えた住宅」であり、将来的に三世同居が可能な「世代循環ができる家」、さらに、若い世代がデザイン、設備、施工費等で「魅力を感じる効率的な住宅」の設計案を募集したものです。

全国から78作品の応募があり、一次審査を通過した15作品について、1月15日、甌葉プラザホール（村山市）において公開審査会が行われました。

地域教育文化学部4年の丹野玲奈さんと3年の熊坂和則さんは、インターンシップで学んだ秋葉アトリエと共同でコンペに応募、第2位にあたる特別賞を受賞しました。

『斜（はす）が地域に開き家族をつなぐ村山サスティナブルハウス』と題した設計案では、「アフォーダブル」「バリュアブル」「フレキシビリティ」「グリーン」にポイントを置き、四季の変化に対応した、自然と親しむ暮らしができる工夫が随所にみられるのが特徴です。

受賞作品は、村山市で希望者がいた場合に、助成制度によって実際に建てることのできるようになっています。



（お問合せ先）

地域教育文化学部 佐藤研究室  
電話 023-628-4377

# 村山の「あんばい・いい家」

MURAYAMA

Sustainable

house

はす  
斜が地域に開き家族をつなぐ

村山サステイナブルハウス



秋葉アトリエ

秋葉圭史・田中秀幸・丹野玲奈・熊坂和則

(山形大学4年)

(山形大学3年)



# 村山市まち・ひと・しごと創世総合戦略

「住みたい、帰りたい“ひと”を増やそう」

## 設計コンセプト

### I : 「雪を考えた住宅」

地域の特性を考慮し雪を負のイメージとしない

### II : 「世代循環が出来る家」

家族のコミュニティと各世代のプライバシーのバランスがとれ、家族構成の変化にも対応できる

### III : 「魅力を感じる効率的な住宅」

若い世代がデザイン、設備、施工費等で魅力を感じる

## その他の設定

家族構成：30代夫婦、子供：小学2年生 男、年中 女  
※近隣在住の双方の両親が、孫を目当てによく遊びにくる

間取り：自由設計（地域に開かれた間取り方を工夫すること）

車両等：普通自動車2台、自転車3台

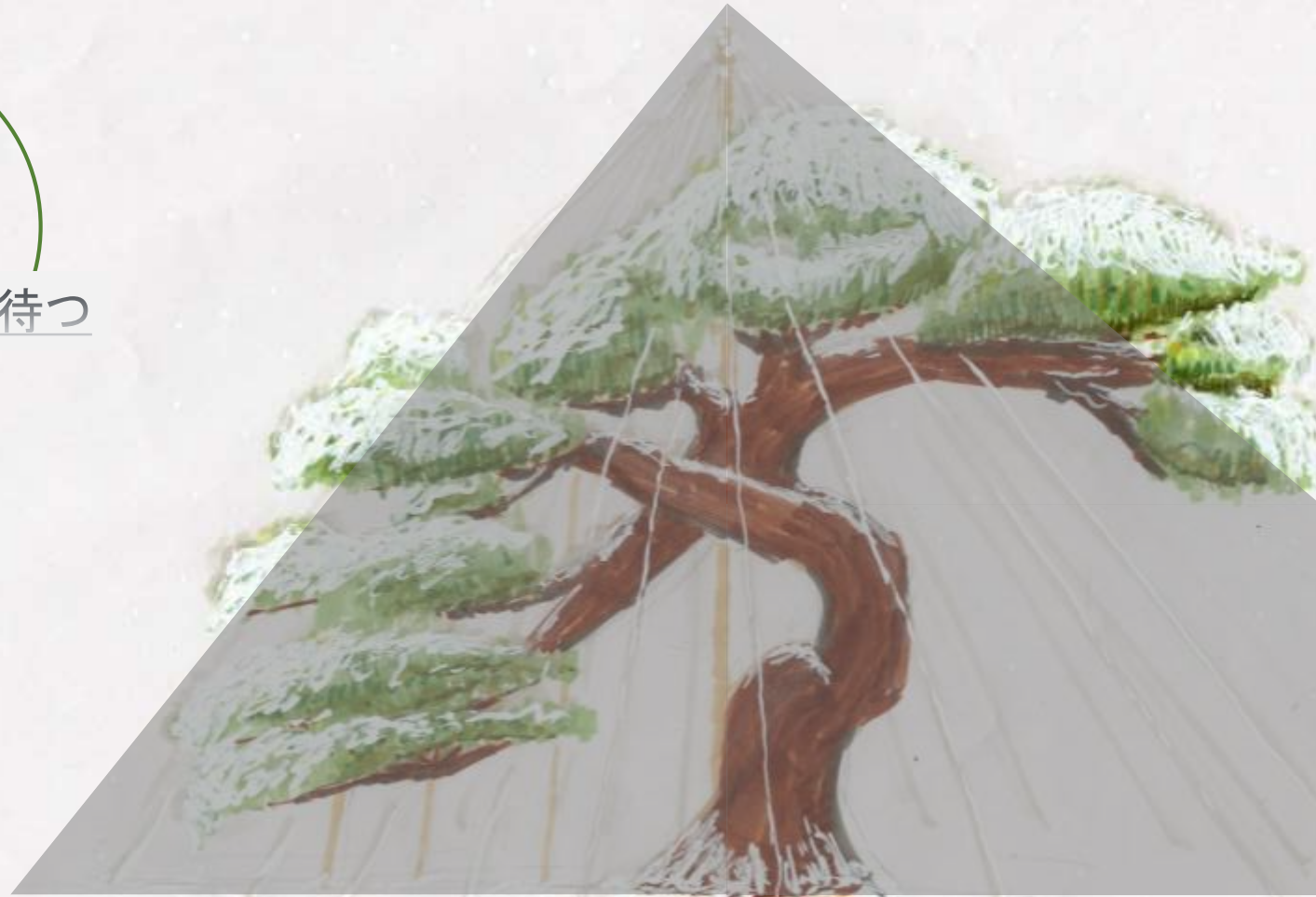
予算等：総工費は、本体2,800万円

神が降りる

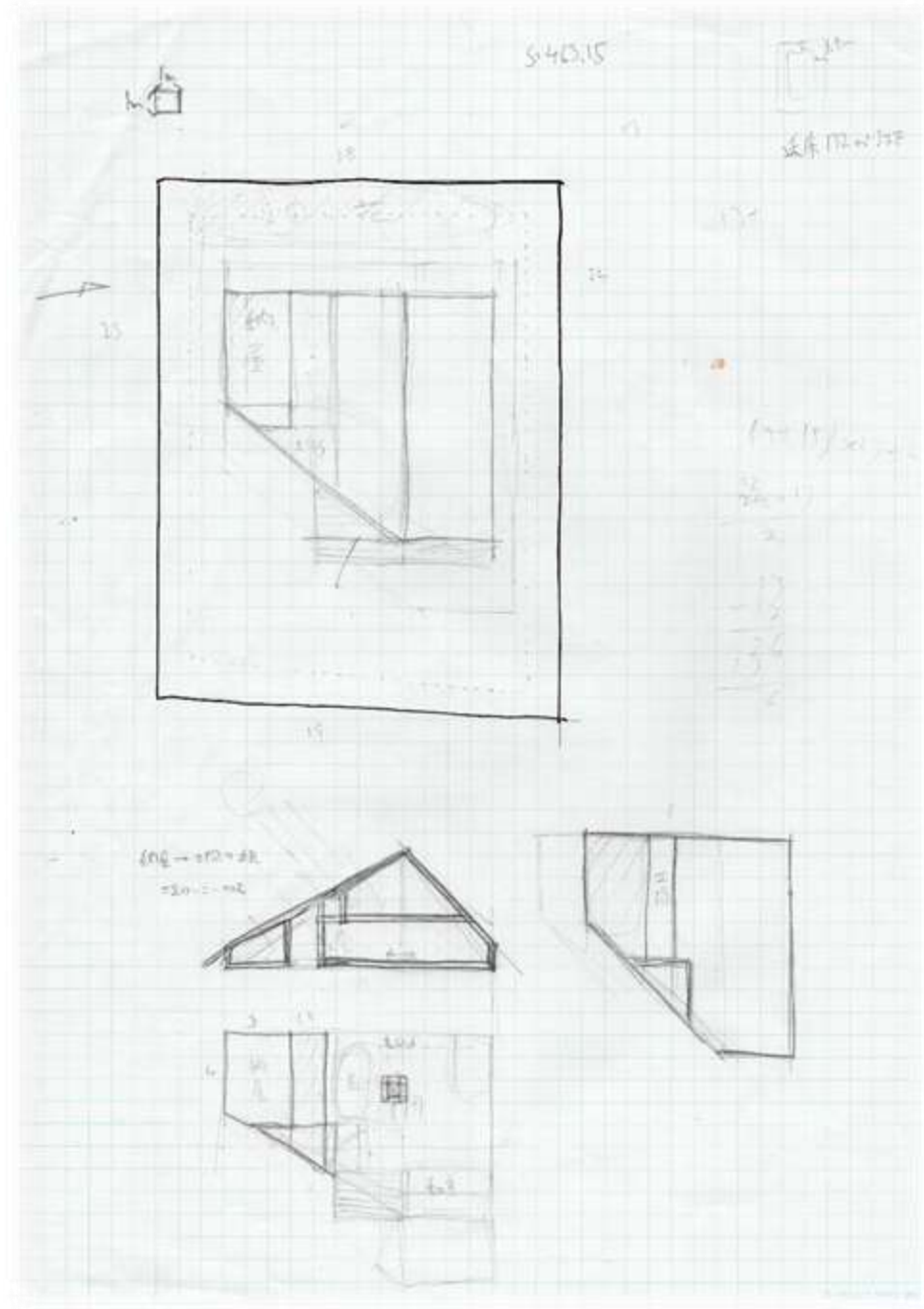
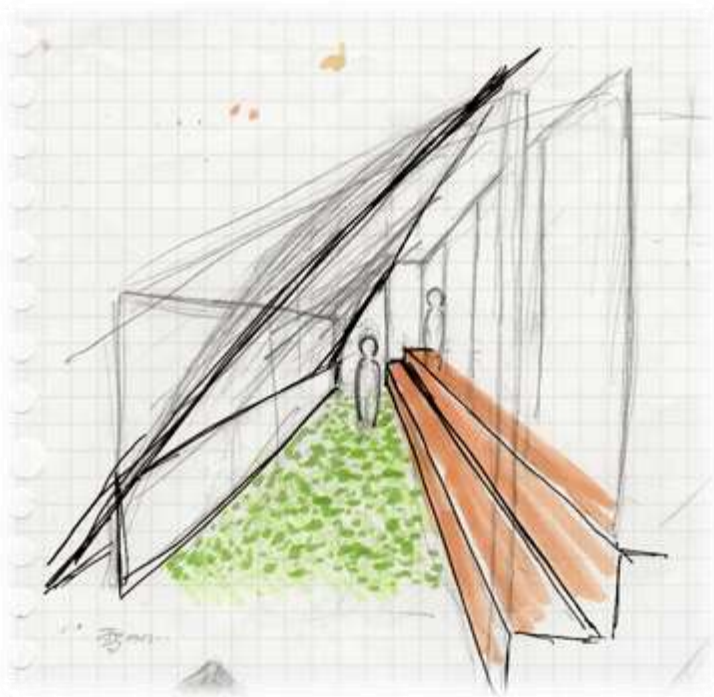
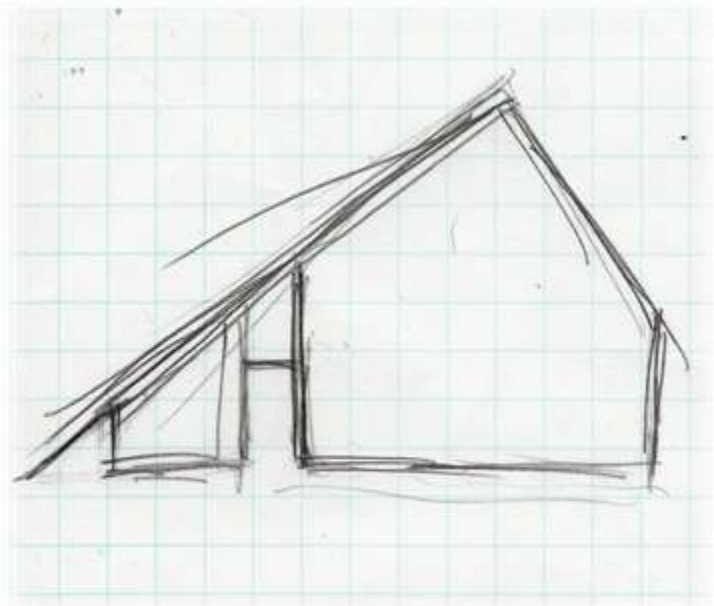
松

長寿

待つ



- 雪に強い
- ひと続きの大屋根
- 人が集う
- 楽しい空間



## 村山サステイナブルハウスのポイント

1. 予算内で魅力のある家が建てられること。
2. 経年しても価値が維持されること。
3. ライフスタイルの変化に順応できること。
4. 資源を大切にして無駄が小さいこと。

アフォーダブル

バリュアブル

フレキシビリティ

グリーン

# 設計コンセプト

コンセプトⅠ：「雪を考えた住宅」

コンセプトⅡ：「世代循環ができる家」

コンセプトⅢ：「魅力を感じる効率的な住宅」

納屋に新たな空間設定

各世代の多様な活動を実現・家族の変化に対応

半戸外空間＝「**アウター土間**」空間を提案

## 建築概要

主要用途：一戸建ての住宅

最高高さ：7,630mm

建築面積：95.65m<sup>2</sup> (28.93坪)

延床面積：131.67m<sup>2</sup> (39.83坪) (1階：76.19m<sup>2</sup>, 2階：55.48m<sup>2</sup>)

建ぺい率：20.65% < 60%

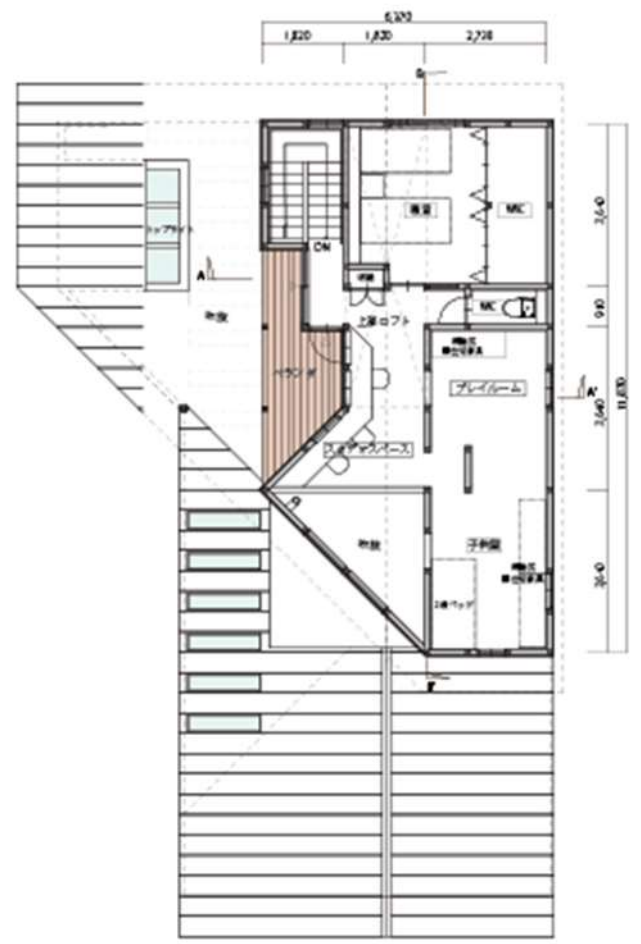
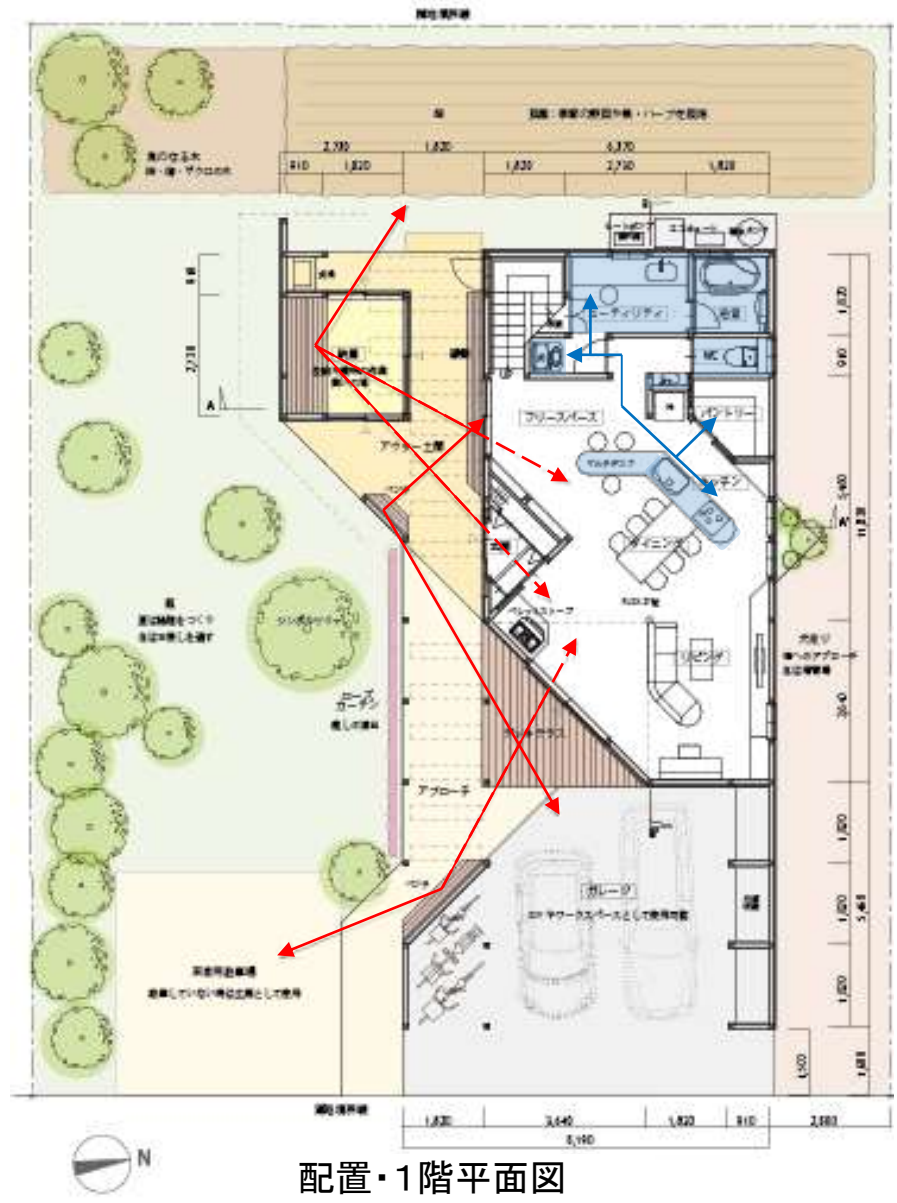
容積率：28.43% < 200%

構造規模：木造2階建て

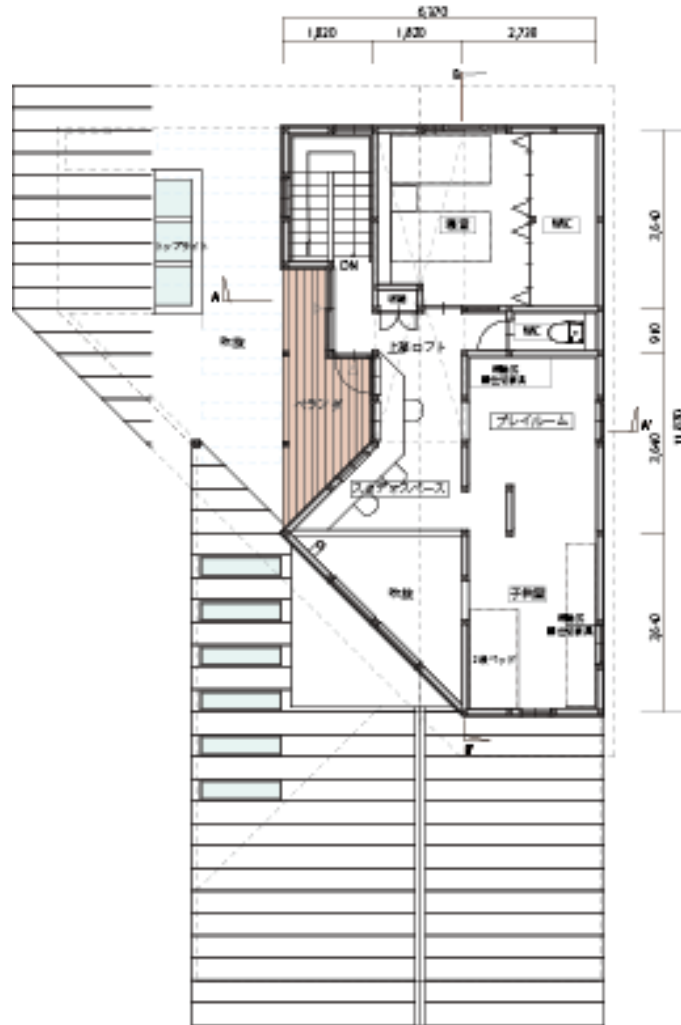
軒の高さ：6,000mm



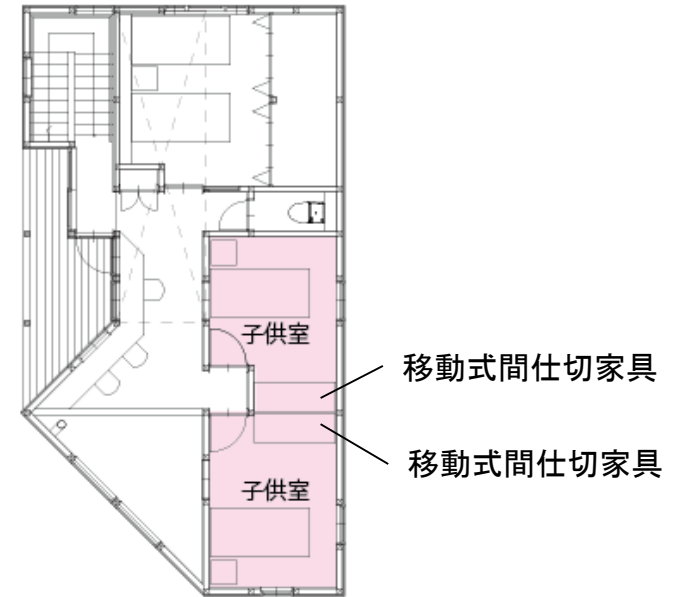
## 2. 設計コンセプト「アウター土間」の提案



3. 配置・平面計画



2階平面図

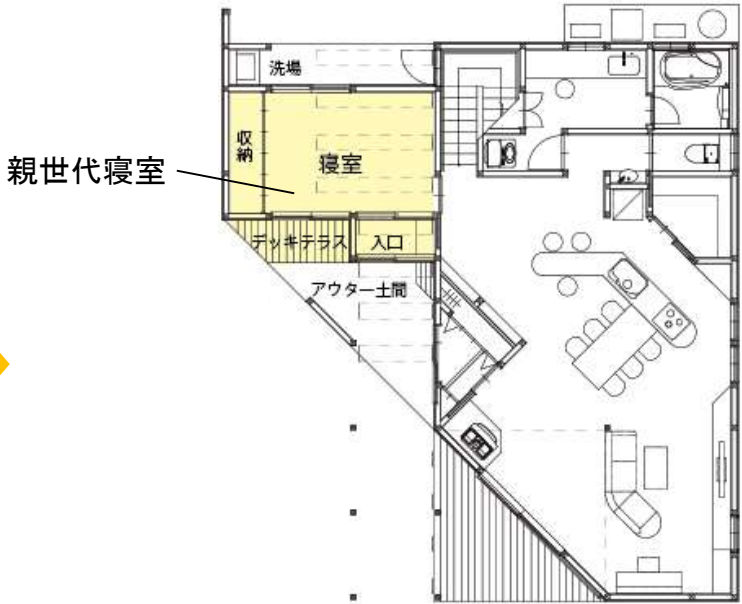
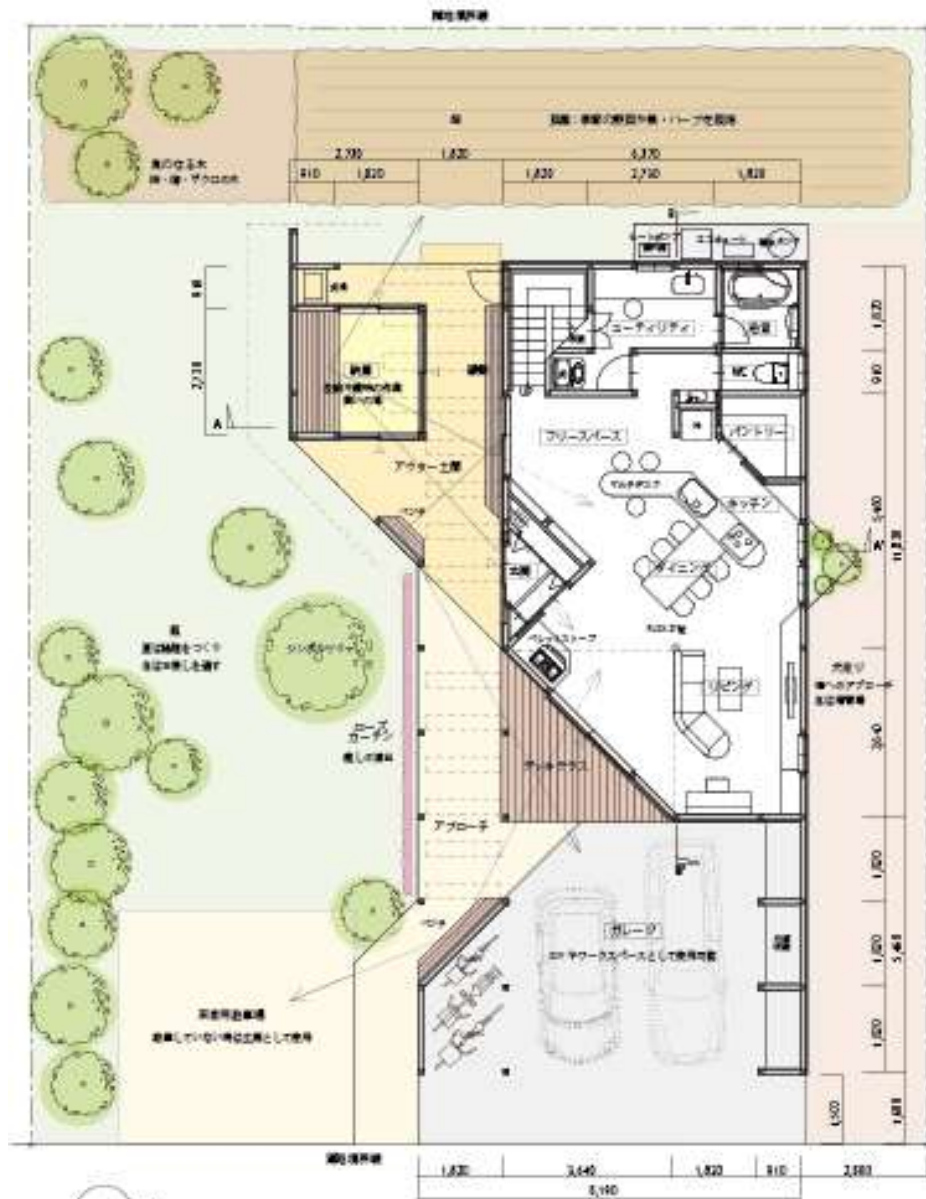


2階

子ども自立期

扉を設け、移動式間仕切家具にて  
プライベートな部屋を確保



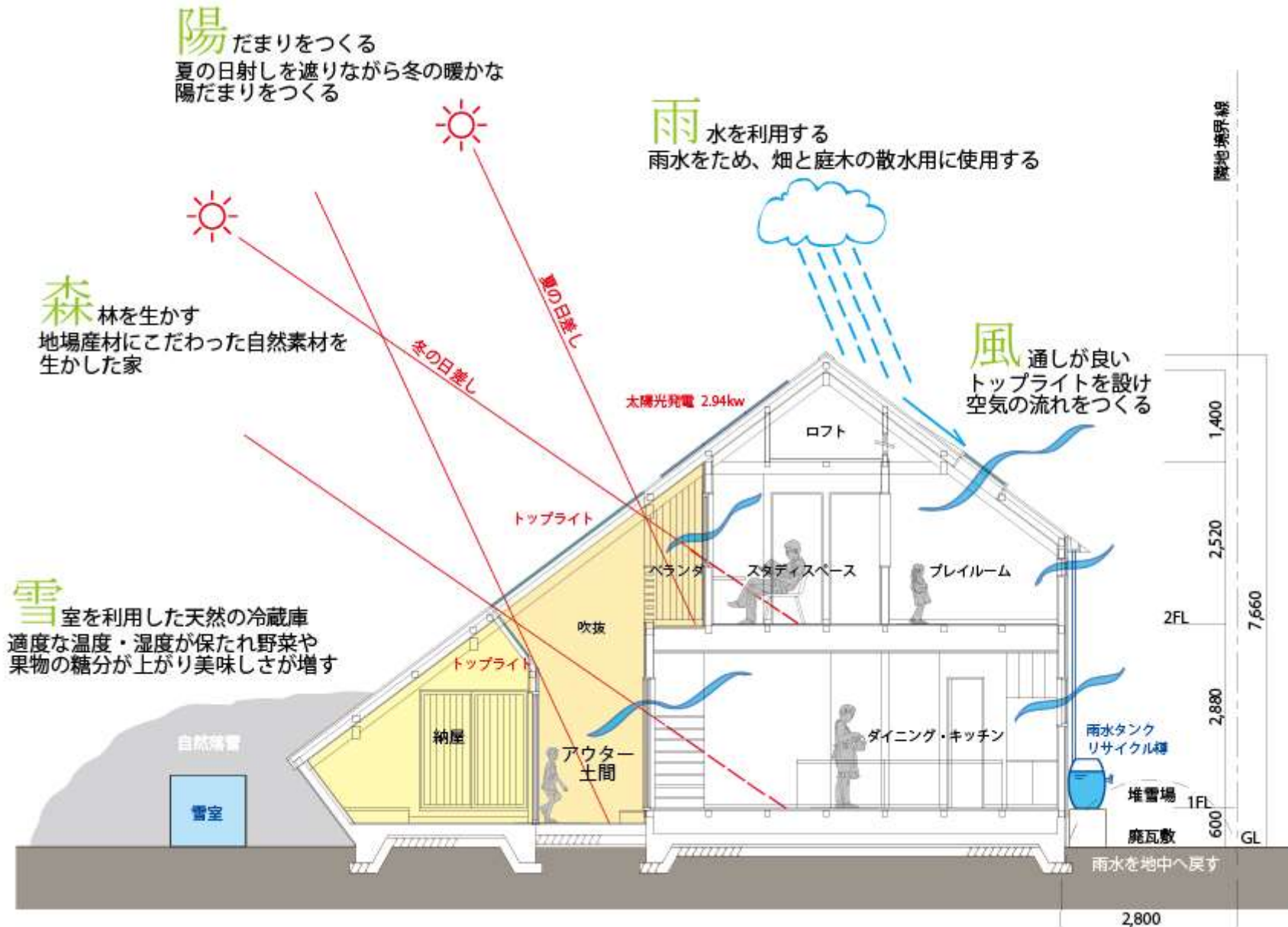


1階

三世代同居期

納屋のリフォーム増築を行い、家族の交流と各世代のプライバシーを確保

4. 世代循環・ライフステージ



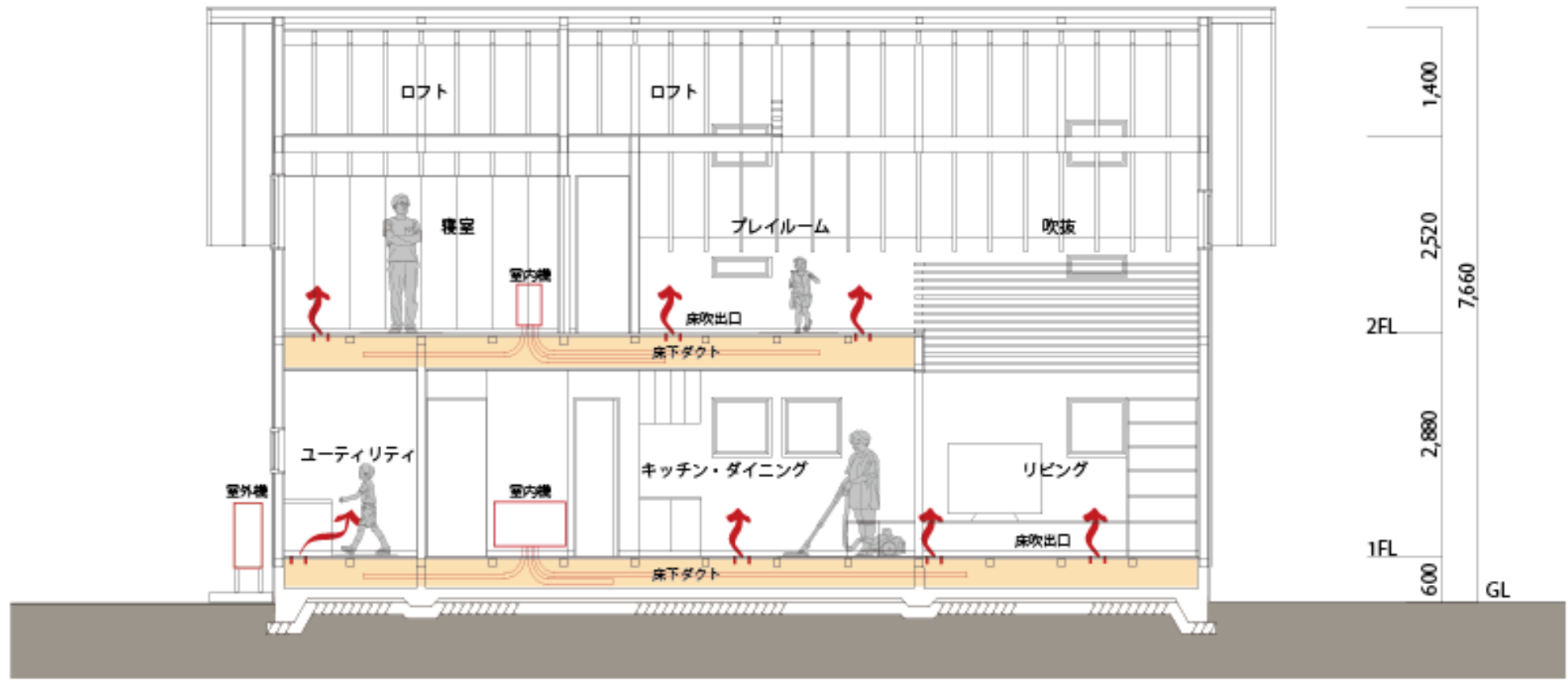
A-A'断面図

5. 断面計画・自然と親しむライフスタイル

**構造** 木造軸組工法 基礎：ベタ基礎 屋根：登り梁垂木構造

**電気・設備** 太陽光発電システム (エコキュート +IH)  
給湯：エコキュート  
冷暖房：高効率ヒートポンプ式床下冷暖房  
+ペレットストーブ

**断熱仕様** 屋根：高性能グラスウール 24K 200mm  
壁：高性能グラスウール 24K 120mm  
基礎：A種押出法ポリスチレンフォーム 3種 B 60mm(防蟻対応)



B-B'断面図

# 楯山石



アウター土間: 楯山石 t=80

# 廃瓦



犬走り:  
廃瓦敷 (庄内廃瓦リサイクル材)



# 植生ブロック

アプローチ・来客駐車場: 廃瓦植生ブロック t=105 (庄内廃瓦リサイクル材)



壁:漆喰壁

天井:チャフウォール

瓦壁 (廃瓦パウダー+土)



楯山石

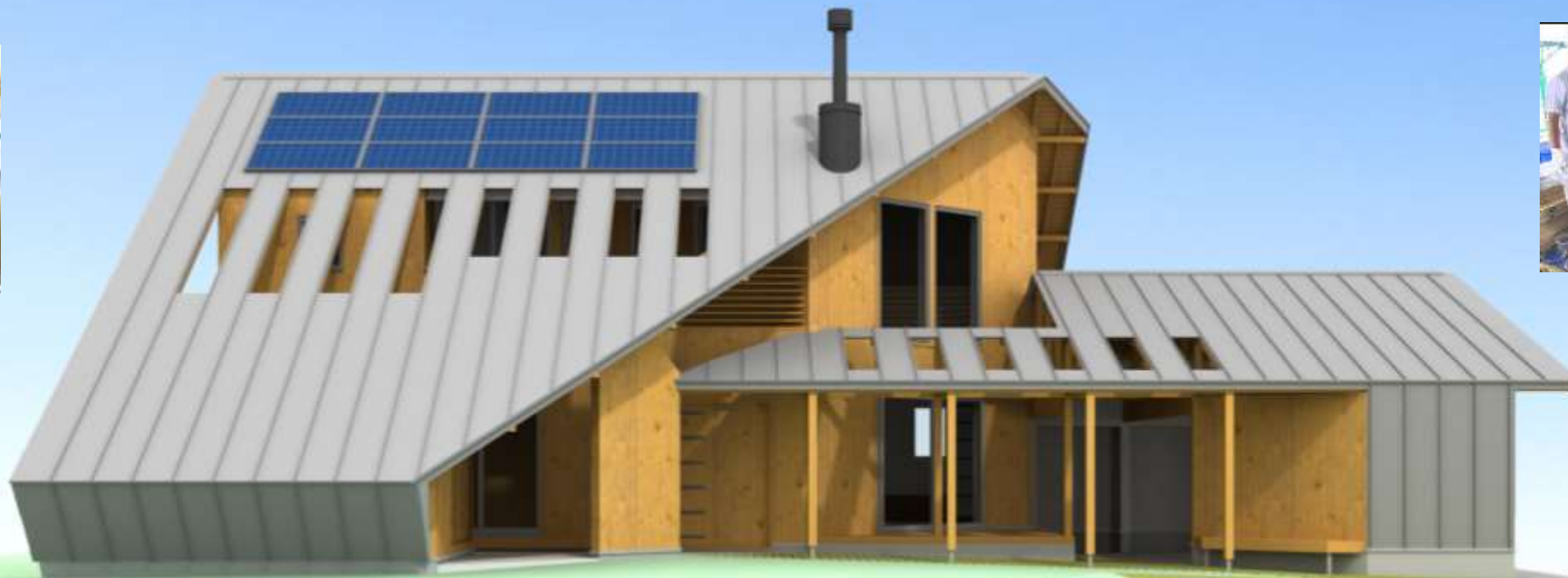
有機EL照明

床:県産タモ無垢フローリング t=15+wp

内部仕上計画

## 参加型の家づくり

建築は出来た時が一番よいのではなく、日々手を入れ楽しむのが建築の醍醐味です。つくる過程において建主が工事へ参加することで、壁塗りや床塗装などにかかるコストを抑えることができます。家族全員で共有することで愛着が湧き、将来のメンテナンスがしやすくなります。



工事費(税別):2,780万円 (建築本体:2,060万円 電気設備:410万円 機械設備:310万円)

【参加することでのコスト削減費:約△50万】+【再生可能エネルギー導入補助金:約△30万】→計2,700万円

平成29年2月7日  
山形大学

## 学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」 で本学チームが第1位！

1月21日に山形大学小白川キャンパスで開催された平成28年度学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」で本学チーム「小さな町を旅する（秋冬編）」が1位を獲得しました。

### 1. 学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」とは

学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」は、“つばさ”プロジェクト※連携校の全学共通教育科目において、学生が主体的に学習活動を行う授業（学生主体型授業：アクティブラーニング）を展開している教員の授業から学生が集まり、自分たちの活動の目的・方法等について、合同で成果の発表を行うもので、今回で8回目の開催となります。発表に向けた準備及び当日の発表と質疑応答を通して、学生が①自分たちの学習活動のプロセスと学習成果を振り返り、②達成の喜びと自己肯定感の向上を味わうとともに、③今後の学業や大学生活の更なる充実に向けた目標設定を行うことを目指します。

※“つばさ”プロジェクトとは、文部科学省の平成24年度『大学間連携共同教育推進事業』に採択された取組である、「東日本広域の大学間連携による教育の質保証・向上システムの構築」の通称で、東日本広域圏の国公立の大学等が連携する「FDネットワーク“つばさ”」の実績を基盤として、効率的かつ実質的な教育の質保証・向上システムを確立することを目的とします。

### 2. 平成28年度「合同成果発表コンテスト」について

今年度の「合同成果発表コンテスト」は、1月21日（土）に山形大学小白川キャンパスの基盤教育1号館111教室で開催され、FDネットワーク“つばさ”加盟校から8チームが参加しました（本学からは5チーム）。1チーム約15分の発表と質疑応答を行い、外部審査員1名を含む参加学生、教職員による審査の結果、本学の「小さな町を旅する（秋冬編）」（担当教員：呉屋淳子講師、参加学生：田村惇さん、土田拓志さん、渡辺創斗さん、植田佳世さん、許可さん）のチームが見事1位を獲得しました。

「小さな町を旅する（秋冬編）」は、特定の地域を自らの足で歩き、その地域の気候、風景、人、モノに触れ、自らのことばやイメージを用いて伝える方法について学ぶ講義です。座学では、これまで見過ごしてきた暮らしのなかの多彩な「文化」を観察する方法を学びます。その際、専門分野の方法論や数値的なデータではなく、自分の想像力を大事にしながら情報を収集します。フィールドワークで収集した情報をもとに、学生たち自身がストーリーテラーとなって、小さな町を語る（「小さなエスノグラフィアー」）ことが最終課題です。

今回1位を獲得した5名は、「小さな町を旅する（秋冬編）」の授業の中から選ばれたグループで、山形大学の近くにある「もみじ公園」でフィールドワークを行い、「もみじ公園と色」というテーマで発表を行いました。

発表では、もみじ公園の魅力を色や和歌に例え、その色に合わせた服を着て発表したり、もみじ公園の色から着想を得て作曲した曲を演奏したりと、工夫を凝らした発表が行われました。

参加者などからは、「身近な場所を、色や音楽といった注目したことのない観点からとらえているのが、新鮮でした。」「発表を聞いて、自分もいろいろなものに興味を持って見てみると、新しい発見があるのかなと思った。」等のコメントが寄せられました。



発表する小さな町を旅する（秋冬編）チーム



もみじ公園で感じた色を音楽で表現する



表彰式の様子



記念撮影

(お問合せ先)  
教務課教育企画担当  
電話 023-628-4720



平成29年2月7日  
山形大学

## 純米大吟醸酒「山形大学 燦樹（きらめき）2017」発売

山形大学オリジナル純米大吟醸酒『山形大学燦樹（きらめき）2017』を  
2月1日（水）から販売中です。

### 1. 純米大吟醸酒「山形大学 燦樹（きらめき）2017」

生酒及び熱処理した火入酒の2種類を、2月1日（水）から同時販売中です。  
帰省や出張の際のお土産品として、本学学生及び教職員はもとより、地域の方々にも  
ご利用いただき、山形大学の好感度アップにつなげたいと考えています。

### 2. 原料米は附属農場産出羽燦々100% 使用

原料米には、農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門（高坂農  
場）で栽培された酒造好適米「出羽燦々」を100%使用しています。  
山形大学 燦樹（きらめき）2011より、特別栽培の認証を受け慣行より50%以  
下の農薬・化学肥料で栽培しています。  
醸造は、昨年と同じ庄内町余目の鯉川酒造に依頼しました。

※参考： 2007・2008：鶴岡市羽黒 竹の露合資会社  
2009・2010：鶴岡市大山 株式会社渡會本店  
2011～2017：庄内町余目 鯉川酒造株式会社

### 3. 販売数量・価格等

醸造本数は、720ml瓶で生酒を700本、熱処理した火入酒を1,000本の合  
計1,700本程度となる見通しです。  
価格は、720ml瓶入り生酒及び火入酒共に1本1,750円です。  
小白川・飯田・米沢・鶴岡の各キャンパス内にある山形大学生協の店舗のほか、同  
組合のホームページからも通信販売にて購入することができます。

### 4. 売上の一部は学生への支援として活用

今年は、約300万円分の販売が予定され、完売した場合には約20万円が「山形  
大学基金」に寄付され、学生への支援として活用されます。

(お問い合わせ)  
山形大学農学部企画広報室  
電話：0235(28)2803  
山形大学生生活協同組合 理事会室  
電話：023(632)3533

平成29年2月7日  
山形大学

## 「山形大学安達峰一郎研究プロジェクト」成果報告書を刊行します

山形大学では、安達博士の業績を正当に評価し、山形県民の誇りとなるよう、平成24年11月に全国の外交史・国際政治及び国際法の研究者10名によるプロジェクトを立ち上げ、研究を進めてまいりました。

このたび、本プロジェクトが最終年度を迎え、これまでの研究の集大成として、成果報告書を刊行いたします。

### ◆山形大学安達峰一郎研究プロジェクトについて

山形が生んだ世界的な偉人、安達峰一郎博士の業績は、日本はもとより山形でさえ一般的には知られていませんでした。

山形大学では、安達峰一郎博士に光をあてた研究プロジェクトを平成24年11月に立ち上げ、その業績を正しく評価し、山形県民の誇りとなるよう、また、安達博士が生きた、明治から昭和初期の日本の置かれた国際環境、国際政治、外交について、安達博士を核にして研究を進めてきました。

このたび、この研究プロジェクトの成果報告書として、『安達峰一郎 日本の外交官から世界の裁判官へ』を刊行いたします。

### ◆『安達峰一郎 日本の外交官から世界の裁判官へ』

柳原正治（放送大学教授）・篠原初枝（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）編

発売日：平成29年2月下旬

判型：A5判、288頁

価格：本体4500円+税

発行元：東京大学出版会

内容：ポーツマス会議では日本の国益を代弁する外交官として交渉に臨み、国際連盟では日本代表として会議の議長を務め、常設国際司法裁判所ではアジア人初の長官として正義の実現を目指した、安達峰一郎。知られざる真の国際人にさまざまな角度から光を当てた、第一級の論者が織り成す初の作品。

目次：はしがき

第Ⅰ部 安達峰一郎とその時代

第Ⅱ部 安達峰一郎と欧米の国際秩序

第Ⅲ部 安達峰一郎と国際連盟

第Ⅳ部 安達峰一郎と国際裁判

安達峰一郎関連の一次史料

（お問合せ先）

総務部総務課総務担当

電話 023-628-4006

平成29年2月7日  
山形大学

\* 詳細は別添の資料をご覧ください。

## 1. 山形大学認定「産学金連携コーディネーター」認定証授与式について

### ～ 県内のコーディネーターが全国最大規模に ～

山形大学では、平成19年度より金融機関職員の目利き人材育成のため、「産学金連携コーディネーター研修」を実施しています。今年度、新たに56名の新規コーディネーター、21名のシニアコーディネーターが誕生し、本コーディネーターは、全国でも最大規模の総計268名となる予定です。

認定証授与式 日時：平成29年2月10日（金）13：30～14：30

会場：山形大学小白川キャンパス 法人本部棟3F 第一会議室

## 2. 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC/COC+)」シンポジウム

### 先輩から後輩へ。～山形で学び、働き、地方創生～

平成25年度に採択された文部科学省地（知）の拠点整備事業（COC事業）に続き、平成27年度文部科学省地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）に採択されました。本学COC/COC+事業の取り組みについて、広く知っていただくため、シンポジウムを開催します。

日時：平成29年2月11日（土）13：30～16：00

会場：山形大学小白川キャンパス基盤教育2号館・文化ホール

## 3. 平成29年山形大学人文学部プロジェクト研究企画 パネル・ディスカッション

### 「東北地方における観光の新機軸」

全国的に増加している外国人宿泊者（インバウンド旅行者）は、その受け入れが交流人口増の大きなカギになっています。しかしながら、東北地方は、外国人旅行者の絶対数・割合が共に低く、国内旅行者の確保も同時に求められています。今回のパネル・ディスカッションでは、難しい問題に直面にしている東北地方の観光に焦点をあて、その新たな方向性について議論を交わします。

日時：平成29年2月19日（日）13：00～15：00

会場：山形大学小白川キャンパス 基盤教育2号館211教室

## 4. 山形大学大学院学生表彰者(校友会会長賞)表彰状授与式のご案内

山形大学校友会は、研究意欲の向上と学術研究活動の更なる活性化を図ることを目的に、学術研究活動において顕著な業績を挙げた大学院学生を「山形大学校友会会長賞」として表彰しています。

日時：平成29年2月15日（水）16：30頃～

会場：山形大学法人本部棟3階第1会議室

## 5. 文部科学省“次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト” 次世代火山研究者育成プログラムが2月11日に開校

今年度から始まった文部科学省のプロジェクトの一つで、東北大学が代表機関を務める「次世代火山研究者育成コンソーシアム構築事業」に山形大学も参加しています。（※詳細は、後日発表します。）この事業で実施する次世代火山研究者育成プログラムの開校式を、2月11日に東北大学において行います。

平成29年2月7日  
山形大学

## 山形大学認定「産学金連携コーディネーター」認定証授与式について ～ 県内のコーディネーターが全国最大規模に ～

山形大学では、平成19年度より金融機関職員の目利き人材育成のため、実践型研修カリキュラムを構築した「産学金連携コーディネーター研修」を実施し、条件を満たした受講者を「山形大学産学金連携コーディネーター」として認定しています。今年度、新たに56名の新規コーディネーター、21名のシニアコーディネーターが誕生し、本コーディネーターは、全国でも最大規模の総計268名となる予定です。この認定証授与式を2月10日に行います。

なお、本取組みは、「山形発 地域からイノベーションを起こす産学金連携システム」として、内閣府が主催する第14回（平成28年度）産学官連携功労者表彰で、選考委員会特別賞を受賞しています。

山形大学では、平成19年より金融機関職員を対象とした「産学金連携コーディネーター研修」を実施し、条件を満たした受講者には、「山形大学産学金連携コーディネーター」として認定しています。

今年度も県内金融機関から61名の受講者があり、うち条件を満たした56名が新たに本認定を受けます。これで、本コーディネーターは、全国でも最大規模の総計268名となる予定です。

また、既認定者を対象とした「スキルアップ研修」を開講しており、新たに21名を「山形大学産学金連携シニアコーディネーター」として認定します。

認定者は所属する金融機関があるエリアにて企業の技術・経営等の課題解決支援にあたることとります。今年度も認定されたコーディネーターが年間約2000件の相談に対応しています。

なお、本活動の意義と成果が評価され、平成28年8月に行われた内閣府主催の第14回（平成28年度）産学官連携功労者表彰において、「選考委員会特別賞」を受賞しました。山形大学では、今後も県内各金融機関との連携を強化し、このような地域イノベーションの一層の創出を図っていきます。

### <お知らせ>

#### ■■■ 平成28年度「産学金連携コーディネーター」認定証授与式 ■■■

1. 日時：平成29年2月10日（金）13時30分～14時30分
2. 場所：山形大学小白川キャンパス 法人本部棟3F 第一会議室
3. 授与式の概要：別紙次第のとおり

（お問合せ先）  
山形大学国際事業化研究センター  
（山形大学工学部米沢街中サテライト）  
副センター長 小野 浩幸  
事務局 鈴木、武田、三條、白幡  
Tel：0238 - 26 - 0761

# 山形大学認定産学金連携コーディネータ制度

## <概要>

- 目的：県内すべての地域金融機関を対象とし、中小企業を取り巻く「経営」「事業」「技術」「市場」の全体を把握分析する実践的スキル向上を図る。
- 内容：山形大学独自の教材による基礎的知識の習得に加え、地域企業の協力のもと事業現場に赴き課題の分析と課題克服に向けたソリューション提案までを行う「PBL；Project Based Learning」方式による研修制度
- 特徴：認定制度・年度毎の更新制度

## コーディネータエキスパート

実務経験5年以上  
基準以上の実績

## シニアコーディネータ

H23～H28の認定者数 **累計 78名**  
**(H28年度有効認定者 72名)**  
H23:10名 H24:10名 H25:13名  
H26:11名 H27:13名 H28:21名



## 産学金連携コーディネータ

H19～H28の認定者数 **累計332名**  
**(H28年度有効認定者 268名)**



H19:22名 H20:23名 H21:43名 H22:29名 H23:13名  
H24:10名 H25:34名 H26:53名 H27:49名 H28:56名

産学金連携コーディネータ認定  
研修1か月後の実践レポート

スキルアップ研修  
H23～H28の受講者数  
**計105名**

H23:11名 H24:11名  
H25:19名 H26:16名  
H27:24名 H28:24名

産学金連携コーディネータ研修受講 (県内13機関が参加)



H19～H28の受講者数 **計439名**  
H19:57名 H20:23名 H21:56名 H22:40名  
H23:21名 H24:17名 H25:43名 H26:63名  
H27:58名 H28:61名

# 山形大学認定「産学金連携コーディネーター」 平成28年度 認定証授与式次第

1. 日時 平成29年2月10日（金） 13時30分～17時30分
2. 場所 山形大学小白川キャンパス 法人本部棟3階第一会議室
3. 式次第

## 《 第1部 》 産学金連携コーディネーター認定書授与式

- 13:30 開会の挨拶 山形大学学長 小山清人
- 13:35 産学金連携コーディネーター制度趣旨説明  
山形大学 学術研究院 教授 小野浩幸
- 13:45 来賓紹介・ご挨拶 （※来賓機関は下記参照）
- 14:00 認定証授与（新規認定者）
- 14:10 認定証授与（シニアコーディネーター認定者）
- 14:20 認定証授与（更新者）
- 14:30 認定者・修了者写真撮影

## 《 第2部 》 記念講演、支援事例発表

- 14:45 記念講演  
『ベンチマークを本業に』  
— 地域振興プラットフォームへの転換 —  
CS・ホスピタリティー研究所 代表 田中 実 氏
- 16:15 支援事例発表（発表10分、公開ディスカッション5分）
  - ・更新コーディネーター 1名
  - ・スキルアップ研修優秀プレゼン者 3名
- 17:30 閉会の挨拶 山形大学 学術研究院 教授 小野浩幸

\*第2部の支援事例発表（16:15～）は非公開となります。

以上

### ※出席来賓機関（予定）

東北財務局山形財務事務所、東北経済産業局地域経済部、  
山形県議会商工労働常任委員会、山形県商工労働観光部、山形県企業振興公社、  
山形県信用保証協会、株式会社荘内銀行、株式会社山形銀行、株式会社きらやか銀行、  
山形信用金庫、米沢信用金庫、鶴岡信用金庫、新庄信用金庫、北郡信用組合、  
山形中央信用組合、山形第一信用組合、商工組合中央金庫山形支店



(作画：山形大学地域教育文化学部3年 永田あかり)

## プログラム

会場：基盤教育2号館221教室

1. 主催者・来賓挨拶 【13:30-13:35】

小山清人 (国立大学法人山形大学長)

吉村美栄子氏 (山形県知事)

2. COC+ 事業の説明 【13:35-13:40】

松田修 (山形大学教授)

3. 「山形と地方創生」 【13:40-14:20】

海輪誠氏 (公益財団法人 東北活性化研究センター会長)

安房毅氏 (山形県工業会会長 / 株式会社タカハタ電子代表取締役)

4. 「山形で働く」 【14:20-14:50】

斉藤慈氏 (山形航空電子株式会社 / 山形大学 OG)

富田彩友美氏 (山形信用金庫 / 山形大学 OG)

5. 「山形で学ぶ」 【14:50-15:05】

Agasuke House Project メンバー

<会場移動→文化ホール>

6. 交流会 【15:10-16:00】

発表者との交流 / ポスター発表 / アンケート記入

全プログラム終了後、情報交換会

会場：厚生会館 【16:15-17:30】

日時  
平成29年2月11日(土)  
13:30～16:00

場所  
山形大学小白川キャンパス  
基盤教育2号館221教室 / 文化ホール

## お問い合わせ・お申し込み

山形大学 COC・COC+ 推進室上山サテライト

電話： 023-695-6261

FAX: 023-695-6229

E-mail: cocsuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〒999-3101 山形県上山市金瓶湯尻 19-5

山形大学総合研究所 501

主催 / 国立大学法人山形大学

共催 / 公益財団法人 東北活性化研究センター・株式会社ナツクサ

後援 / 山形県・山形県教育委員会・山形市・米沢市・鶴岡市・酒田市・上山市・長井市・西川町・

真室川町・戸沢村・飯豊町・三川町・庄内町・遊佐町・山形県商工会議所連合会・山形県商工

会連合会・山形県工業会・山形県銀行協会・山形県信用金庫協会・山形県経営者協会・山形創

造 NPO 支援ネットワーク・山形県立米沢栄養大学・鶴岡工業高等専門学校・

東北公益文科大学・東北文教大学・東北文教大学短期大学部・東北芸術工科大学

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

山形大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC/COC+)」シンポジウム

先輩から後輩へ。

～山形で学び、働き、地方創生～

## シンポジウム 参加申込書

ふりがな	
参加者氏名	
所属	
住所	
電話番号	
情報交換会	<input type="checkbox"/> 参加する(会費:2,000円) 名様 <input type="checkbox"/> 参加しない

※ご記入いただきました事項については、本シンポジウムの開催目的以外で使用することはありません。

FAX送信先: **023-695-6229**(このまま送信下さい)

Eメール: [cocsuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:cocsuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)

\*お申し込み締め切り 2月2日(木)

### 《会場案内》

国立大学法人山形大学  
小白川キャンパス  
基盤教育2号館221教室・  
文化ホール

#### 【本件連絡先】

山形県山形市小白川町一丁目4-12

電話 023-628-4843

023-695-6264





## 「東北地方における観光の新機軸」

東京、大阪、名古屋といった巨大都市を含む地域の宿泊客は、近年、堅調に推移しているものの、地方域の宿泊客は伸び悩む傾向が見られます。一方、外国人宿泊者（インバウンド旅行者）は全国的に増加しており、彼らの受け入れが交流人口増の大きなカギになっています。しかしながら、東北地方は、外国人旅行者の絶対数・割合が共に低く、国内旅行者の確保も同時に求められています。今回のパネル・ディスカッションでは、難しい問題に直面にしている東北地方の観光に焦点をあて、その新たな方向性について議論を交わします。

コーディネータ：宮原 育子（宮城学院女子大学）

パネリスト：山形県の取り組み 村上 朋子（山形県観光交流局観光立県推進課）  
旅行商品 佐々木心也（H. I. S.）  
教育旅行 初澤 敏生（福島大学）  
大学の取り組み 山田 浩久（山形大学）

日 時：2017年2月19日（日）13:00-15:00

場 所：山形大学小白川キャンパス 基盤教育棟2号館211教室

参加費：無料

主 催：日本地理学会地域連携活動グループ

共 催：山形大学 GIS 利活用研究所

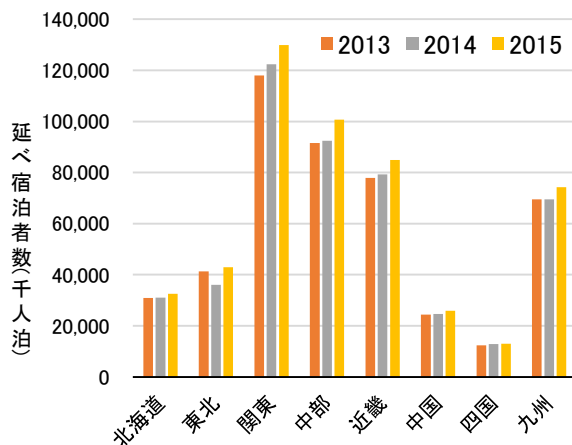


図1 地域別延べ宿泊者数の推移

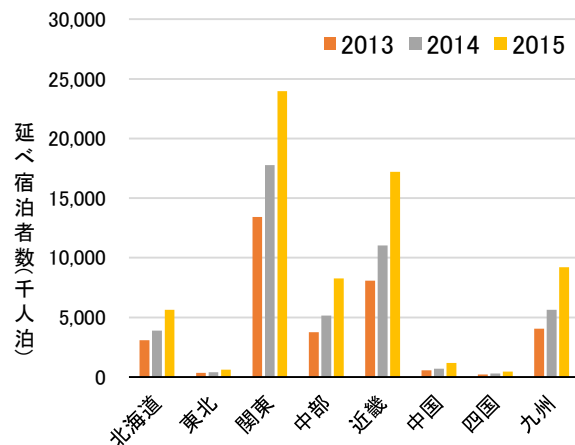


図2 地域別延べ外国人宿泊者数の推移

参加ご希望の方は下記の E-mail アドレスから山田宛に氏名、人数、連絡先をお知らせ下さい。

山田 浩久 (HIROHISA Yamada)  
山形大学 人文学部 人間文化学科  
Tel 023-628-4246  
E-Mail: [hyamada@human.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:hyamada@human.kj.yamagata-u.ac.jp)



平成29年2月7日  
山形大学

## 山形大学大学院学生表彰者（校友会会長賞）表彰状授与式のご案内

山形大学校友会は、研究意欲の向上と学術研究活動の更なる活性化を図ることを目的に、学術研究活動において顕著な業績\*を挙げた大学院学生を「山形大学校友会会長賞」として表彰しています。

平成28年度表彰状授与式は来る2月15日(水)に実施し、大学院学生18人を表彰します。

### 「山形大学校友会会長賞」の表彰状授与式

- ◆日時：平成29年2月15日（水）16：30頃～ 校友会理事会終了後
- ◆会場：山形大学法人本部棟3階第1会議室
- ◆被授与者：18人（別表のとおり）
- ◆式次第：
  - ・表彰状、奨励記念品(5万円)の贈呈 校友会会長（小山清人学長）
  - ・お祝いと激励のことば //
  - ・被授与者代表のあいさつ

### ※参考(表彰の基準)

- (1) 全国規模の学会から賞を受けた場合
- (2) 科学研究費補助金等の競争的研究資金に採択された場合
- (3) 世界的に評価の高いジャーナル誌へ論文等が掲載された場合
- (4) その他(1)～(3)と同等と思われる顕著な業績を挙げた者

(お問合せ先)  
山形大学校友会事務局  
(大沼・黒沼)  
電話 023-628-4867

## 山形大学校友会大学院学生表彰 授与者名簿

整理 番号	所 属 等	氏 名
1	大学院理工学研究科 博士前期課程物理学専攻 2年	いなば りょうた 稲葉 涼太
2	〃 博士前期課程物理学専攻 2年	くらもと みなみ 倉本 南
3	〃 博士前期課程物理学専攻 2年	こじま けいき 小島 圭貴
4	大学院医学系研究科 博士前期課程生命環境医科学専攻 2年	あきはら りゅうすけ 明原 隆介
5	〃 博士後期課程生命環境医科学専攻 2年	い ぜよん 李 在勇
6	〃 博士課程医学専攻 3年	おの たかし 小野 崇
7	〃 博士課程医学専攻 4年	かめい けいた 亀井 啓太
8	〃 博士課程医学専攻 3年	さかき ひろつぐ 榊 宏論
9	〃 博士前期課程生命環境医科学専攻 2年	しらと たかや 白土 貴也
10	〃 博士課程医学専攻 2年	ほんま りゅうすけ 本間 龍介
11	大学院理工学研究科 博士前期課程機能高分子工学専攻 2年	たかおか しゅんや 高岡 駿矢
12	〃 博士前期課程機能高分子工学専攻 2年	たかき めい 高木 芽衣
13	〃 博士前期課程情報科学専攻 2年	たかはし ちゃこ 高橋 茶子
14	〃 博士後期課程有機材料工学専攻 3年	たけだ やすのり 竹田 泰典
15	〃 博士前期課程有機デバイス工学専攻 2年	ひきち たつや 引地 達也
16	〃 博士前期課程電気電子工学専攻 1年	まつだ けん 松田 謙
17	大学院農学研究科 修士課程生物環境学専攻 1年	いとう えりか 伊藤 絵里香
18	〃 修士課程生物資源学専攻 2年	ほんだ そういちろう 本田 創一朗

平成29年2月7日  
山形大学

## 文部科学省“次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト” 次世代火山研究者育成プログラムが2月11日に開校

御岳山の噴火などを契機に、火山研究を総合的に推し進める必要が認識され、文部科学省は、火山に関する各種研究プロジェクトと人材育成プロジェクト（次世代火山研究者育成コンソーシアム構築事業）から成る“次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト”を立ち上げました。

このプロジェクトのひとつで、東北大学が代表機関を務める「次世代火山研究者育成コンソーシアム構築事業」に山形大学も参加しています。この事業で実施する次世代火山研究者育成プログラムの開校式を、2月11日に東北大学において行います。

### ○次世代火山研究者育成コンソーシアム構築事業

次世代火山研究者育成コンソーシアム構築事業は、若手研究者の育成・確保を推進することを目的として、火山研究・教育を行っている大学、関係省庁、研究機関などが連携してコンソーシアムを構築し、火山研究者育成プログラムを作成・実行します。事業費は本年度から10年計画で年間約4千5百万円です。

理学にとどまらない工学・社会科学等の広範な知識を有する研究者を育成・確保し、火山研究者の人数を現在の80人から160人に増やすことが目標です。

### ○山形大学も参加

コンソーシアムの参加機関は、東北大学、北海道大学、山形大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、九州大学です。協力機関は、鹿児島大学、神戸大学、信州大学、東海大学、秋田大学、防災科学研究所、気象研究所、産業技術総合研究所、国土地理院です。これらの機関が主体となって、講義・セミナー、フィールド実習、テキストの作成などを行い、次世代火山研究者育成プログラムを実行していきます。

### ○プログラム開校式開催

本年度、このプログラムに30名を超える受講生が集まりました。次のとおり開校式を行います。

- ・日時：平成29年2月11日（土）14:00～ ※冒頭30分のみ取材可
- ・場所：東北大学理学研究科合同C棟S407室

#### （お問合せ先）

学術研究院 教授（理学部担当）  
伴 雅雄

電話023-628-4642

ban@sci.kj.yamagata-u.ac.jp